

凡事徹底を貫く ～具同小学校の当たり前を基盤として～

四万十市立具同小学校長 中平 泰史

『誰にでもできる平凡なことを、誰にでもできないくらい徹底してやり続ける。』

これは、松下電器（現パナソニック）創設者の松下幸之助氏が言った言葉です。

松下幸之助氏は取引先の企業を訪れた時、経営がうまくいっているかどうかを見抜く方法として次のようなことを言われたというエピソードがあります。それは、特別なことではありません。一つ目は従業員の挨拶、二つ目は整理整頓、三つ目はトイレの掃除です。挨拶を交わすことによってコミュニケーションの輪が広がる。整理整頓をすることですがすがしい気持ちになり、トイレを美しくすることによって心が磨かれる。つまり、当たりの前かが当たり前でできているかどうかで、取引先の経営状態がわかるという話です。

さて、世の中は様々な技術革新による急激な変化が留まることを知りません。一昔前には絵本や図鑑でしかありえなかった空想の世界が、今や現実となり、それが人々のニーズに合うように日々進化し続けています。教育界においても GIGA スクール構想によって子ども達に一人一台のタブレット端末が配付され、今後はタブレット活用が主流となった授業展開がなされると思います。瞬時に世界中の人々とつながることはもちろん、あらゆる情報を素早く獲得できる時代が到来しました。紙の教科書やノート、資料集、そして鉛筆や消しゴム、これらはやがてランドセルの中から消えるかもしれません。学習方法もどんどん変わっていくことでしょう。本校の教育活動も、時代の流れに乗り遅れることなく、教職員全員が研鑽を重ね、日々進化し続けなくてはならないと考えています。

しかし、どんなに教育の在り方や方法が変わっても、子ども達にしっかりと身に付けて欲しい「当たり前」が存在すると私は思います。幸いなことに、本校には伝統的に「5あ」が伝えられており、約束事として子ども達の中に浸透していると感じます。

具同小学校の「5あ」

あいさつ あんぜん あとしまつ あつまり あそび

毎朝の交通指導とあいさつ運動を兼ねて校門に立つ私に、子ども達は、立ち止まって「おはようございます。」と言った後に一礼をして学校に入っていきます。「5あ」の一番初めにくる「あいさつ」の大切さを、日々の生活の中で、または上級生の姿から自然に学び取っています。この習慣は、学校生活だけではなく、子ども達が社会に出た時にきっと役に立つ、予測困難な時代だからこそ役に立つ、そう信じて他なりません。

これからも、本校に伝わる「5あ」を具同小学校の当たり前とし、これを徹底、継続していくことを基盤として、今求められる資質・能力の育成を目指した学習をあらゆる教科で実践し、確かな学力を身に付けていく。このことこそが次世代を生き抜く子ども達の「生きる力」に繋がると信じています。